

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

学校名	唐津市立佐志小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた人権教育の推進と教育相談や特別支援体制が共有されており、生徒指導上の問題にも早期対応ができているため、学校が楽しいと感じる児童が増えている。 ・対話的で深い学びを追求した校内研究へ全職員で取り組み、成果や課題を共有できた。
2 学校教育目標	持続可能な社会の創り手となるたくましい児童の育成 ～めざす子どもの姿～ 「気づき、考え、実行する」子ども
3 本年度の重点目標	①新型コロナウイルス感染対策の徹底 ②学力の向上 ③人権・同和教育の充実 ④個別の支援の組織対応 ⑤OJT及び働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な校内研修を実施する。 ・全職員が授業研究会を実施する。
	○朝の特設タイムの設定 スキルタイム、朝の読書 ○さし人学習の充実 (ひとみタイムの設定)	○期末テストの漢字、計算テストにおいて70%以上の点数を目標とする。 ○「話し合い活動のよさを感じる」回答した児童70%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の国語スキルタイムでは、全学年共通の教材を使用し、言語事項の習得を図る。また、算数スキルタイムでは、ドリル等を活用した基本的事項の確認やテスト、宿題についての解説を行う。 ・授業では、自力解決や交流活動の場を設定し、交流活動の中で様々な考えにふれさせたり、自分の考えを伝えさせたりする。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り活動後のふり返りで、活動に対して肯定的な回答をした児童が80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動を充実させ、その都度ふり返りを行う。 ・しろうおボードを活用する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校に行くことが楽しい」と回答する児童が80%以上。 ○「児童が楽しく学校に通えるような指導・支援をしている」と回答する職員が95%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の「心のアンケート」を実施し児童の実態を把握する。 ・「生徒指導・教育相談協議会」を月1回実施し、情報共有と組織的対応を図る。 ・事案発生時には「いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に早急に対応する。
	○人権・同和教育の充実	○児童の差別を「見抜く力・許さない心・なくしていく実践力」を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の必須教材を計画的に実践する。 ・人権の日集会や人権週間を実施する。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①児童が主体的に取り組むことができる環境づくりに努め、授業以外で運動やスポーツを行う児童が70%以上を目指す。 ②12月の時点で、虫歯の歯科受診の割合を60%以上にする。 ○朝食の喫食率を、全校児童の75%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会を中心として「スポーツチャレンジ」への参加を全校に呼びかけ推進する。 ・なわとびタイムやマラソントimeを実施し、記録カードの配布や、意欲向上につながる掲示、放送でのよびかけなどを行う。 ・「ほけんだより」や掲示物等で、歯磨きや虫歯治療に対する児童や保護者の意識を高める。 ・個別に受診勧告をし、虫歯予防や虫歯治療へとつなげる。 ・毎学期にアンケートを行い、各家庭へ啓発を行う。「食に関する指導の年間計画」に基づき、各学年に応じた指導を実践する。
	○新型コロナウイルス感染症対策	①マスクの着用率90%以上 ②毎朝の検温と体調チェック ③こまめな手洗いと手指消毒の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用の呼びかけと、予備のマスクを持参させ紛失や破損時に備える。 ・家庭との協力を仰ぎながら、毎朝の健康観察を充実させ体調不良者の早期発見・早期対応をする。 ・正しい手洗いを定着させ、感染症予防に努める。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限月45時間、年間360時間を遵守する。
	○OJTの推進	○週1回の学年会の確実実施。 ○年間を通じ校内研究授業 全職員実施。(中堅、ベテラン教員の模範的授業参観)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会、学年部会における若手教員への具体的指導、相談体制の確立する。 ・校内研究会を活用した若手教育への働きかけを全職員が意識する。また、時間割を調整し、初任者や若手教員に対して授業参観の機会を作る。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○特別支援教育の推進	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する意識が向上した教員80%	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援方法を研修し、特別支援に対する見識を深める。 ・年度当初に個別の支援計画や指導計画を活用して共通理解を図り、個に応じた対応を行う。